

さくら・市民ネットワーク
現地調査
報告集

せまい！
あぶない！

佐倉市の通園・通学路

こどもたちが安全に登校でき、

安心して帰宅できるために、

二度と悲惨な事故を繰り返さないために…



さくら・市民ネットワーク

〒285-0378 佐倉市王子台 3-5-13

TEL 043-462-0618

FAX 043-489-0797

news@sakura-siminnet.com

2022年1月

八街市の通学路で児童5人死傷事故

2021年6月28日、八街市で下校中の小学生の列に、飲酒運転の大型トラックが突っ込み、2人の命が奪われ、1人が重体、2人が重傷という痛ましい事故が起きました。

このトラックは、佐倉市を通過して八街市の会社に帰りつく直前でした。佐倉市内で事故を起こした可能性もあります。

決して他人事ではありません。



全国で一斉に緊急点検が始まる

- 国は、通学に危険な箇所の一斉点検を、全国自治体に指示。
- 佐倉市は**78**か所を危険箇所として県に報告。
- 千葉県全体では**3495**か所に上り、現在対策が進められています。しかし、単に「見守りの強化、電柱幕や注意喚起の看板設置」などソフト面での対応が多く、費用と時間がかかる信号や横断歩道、ガードレール等の設置は、必要最小限にとどまっています。

さくらネットでアンケート調査 ～近くに危険な通学路は？～

8月15日発行の「さくら・市民ネットワーク通信」で、「危険な通園・通学路をお知らせください」というアンケートはがきを掲載したところ、1か月で35通もの返信がありました。佐倉市が発表した78の危険箇所と同じ場所も多くあります。

早速、代理人と一緒に現地調査を始めました。



トラックが激突した電柱が大きく傾き、衝撃の大きさを物語っています。手前の白いピニール台が献花台。

7月7日に、八街市の事故現場の通学路を視察しました。

道路には、中央線も歩道もありません。制限速度も60キロ。こんな危険な通学路が、保護者の対策要望があるにも関わらず、長年野放しになっていました。



危険な通園・通学路をお知らせください
市民ネットワークは毎年予算案で、通学路の改善を盛り込んでいます。今回の八街の事故を受けて、佐倉市内の危険な箇所を調べることにしました。4面のハガキでぜひ子どもと連携して、通園・通学路の改善に取り組みます。

今回の現地調査では、多くの市民の皆様のご協力がありました。普段、何気なく通る道路について、たくさんの『気づき』を頂きました。心より感謝申し上げます。



ハガキの山！たくさんの声が寄せられました。

2021年9月 さくらネットで独自調査スタート!

佐倉地区①

寺崎北の十字路 抜け道危険!

返ってきた35通のハガキに書かれている「危険箇所」を、代理人が中心になって現地調査をしました。

【市民の声】
抜け道として使われており、スピードを出して通る車が多い。実際に車同士や車とバイクなどの事故も起きている。



現地調査と対応

道路には「優先道路」を示す点線の舗装だけで、横断歩道もない。
→道路維持課に対応を促し、電柱幕を両側2か所に設置した。点線の引き直しを予定している。

佐倉街道：中学生の自転車通学

【市民の声】
佐倉中と南部中の生徒が県道を自転車通学しているが、おしゃべりしながら2、3台並行していることが多い。自転車道の整備は勿論だが、子どもたちに安全意識をしっかりと持ってもらうため、学校での指導を期待する。



雨の夕暮れ時、東関道の陸橋の上を自転車で行く中学生二人。車がすぐ横を通ります。後ろから大きなダンブが迫って来ている。←

佐倉地区②

裏新町、玉屋の横の道

【市民の声】

かなりの段差があり、大人でも危険な階段。その下は、大雨のとき崖崩れの危険性がある。

現地調査と対応

佐倉小の通学路で、100人以上が利用。崩れた斜面の下はフェンスが並べられて歩道が狭められているが、「以前よりは広くなった」と、スクールガードの方から話が聞けた。

危機管理課にヒアリングしたが、「2019年10月25日豪雨で崩れた。民地なので改修してほしいと伝えているが、費用がかかるので困難」とのこと。しかし危険なので、今後も市に要請していく。



鎗木町 くもの井の湧水



くもの井の湧水

昔村人がこの地を開墾した時にクモの住処を守ったので、クモが恩返しに、涸れることのない湧水をくれたという伝説があります。



【市民の声】

狭いトンネルだが、抜け道となっているため通過車両が多い。見通しが悪く、歩道線はあるが狭くて危険。

市道路維持課にヒアリング：トンネルの外側の路肩を拡幅し、トンネル内も歩道を広げ、車線分離標（オレンジ色のポール）を設置する。改善は来年度。

神門交差点



神門交差点の奇々怪々

佐倉側から千葉市側を見た上の写真をご覧ください。右折レーンがあるのに、右折信号がありません。何のための右折レーンでしょうか。

県警に問い合わせたところ、「対面する道路にも右折レーンがあることが必須条件だが、地主の同意を得られないため右折レーンが設置できない。右折専用信号は当分ムリ」・・・

佐倉地区③

岩富、弥富直売所の三叉路

【市民からの声】

三叉路付近は歩道がなく、草が生い茂り見通しが悪い。八街横芝線の何か所か、木が大きく茂り、トンネル状態で空が見えないほど。落木もあり危険なので伐採してほしい。



現地調査と対応

歩道がなく危険であることを認識。しかし、歩道を整備するには道路の拡幅が必要。すぐの解決は難しそうである。

【佐倉市道路維持課にヒアリング】

県道なので、市としては住民から改善の要望が来ても、県に伝えるだけで記録は取っていない。木が大きく茂っている件も、県の管轄。

→ 市は知らん顔するのではなく、県にきちんと伝えるよう要望し、県議も県にヒアリングする。



第三工業団地近くの通学路

【市民からの声】

第三工業団地につながる市道（右地図の赤い線）は、南部中の生徒の通学路になっている。歩道がなく、速度制限50kmであり、物流の大型トラックが一日中通っている。

第三工業団地の入り口まで約300mを20km制限にするか、歩道を作ってほしい。



現地調査と対応

【県警にヒアリング】

現状の速度制限50kmをより厳しくすることは難しい。

【提案】

千葉市で実施しているが、車道に色分けした自転車道の設置ができないか提案していく。

白井地区 ①

白井駅南、王子台 4 丁目

【市民からの声】

朝夕の通勤の抜け道になり、スピードを上げる車が多く、30 km制限が無視されている。真野台小、保育園があり非常に危険。



現地調査と対応

県警にヒアリングしたが信号機は無理とのこと。

→スピード取り締まりを要望していく。

県道64号線 中宿～船戸大橋

【市民からの声】

印西方面に向かう県道 64 号線は、歩道が非常に狭い。白井小に子どもを通わせているが、登下校の子どもたちの脇を、大型車がばんばん通って行く。1 人がやっとすり抜けるような状態で本当に危険。

現地調査と対応

「大型車両進入禁止」の標識が立っているのに、ひんぱんに大型車両が通っている。歩道は極めて狭く、あつて無きが状態。本当に命の危険を感じた。



中宿交差点の標識



中宿交差点から船戸大橋の向こうまでは、大型車両禁止区間。県警に取り締まりをきちんとするよう強く要望。

【道路を守り、人は守らない法律】

道路交通法は、車両の幅ではなく、重量を規制している。道路が傷まないためだ。しかし、県道64号線のような狭い道路では、車幅こそ規制する必要がある。法改正も視野に入れて、県に要望していきます。



ブロック塀が続く細い歩道

白井地区 ②

生谷① ひまわりの里付近

【市民からの声】

生谷のひまわりの里に突き当たる三叉路。ひまわりの里への入出庫の車の速度が速すぎる。「止まれ」なのに止まらず、三叉路に飛び出してくる。

【対応】

佐倉市道路維持課からひまわりの里にひとこと伝えてもらうよう、要請。

生谷② 県道64号 南が丘団地付近

【市民からの声】

県道が狭く歩道がない。4歳の子を自転車の後ろに乗せて保育園に通うが、横断歩道もなく、スピードを上げて走る車に毎日怖い思いをしている。

現地調査と対応

雨の日は特に危ない！



生谷南が丘団地が造成され、子育て世帯が多く住むようになり、通園・通勤等で県道を使う人が増えている。過去に何度も事故が起きている。▲のところの横断歩道が消えていることを県に報告し、その後改修。



【県警に要望】

南が丘団地から出てきた交差点（●の箇所）に信号機・横断歩道設置を要望。

自治会経由でも市・県へ要望を提出するよう提案した。

事故が多発！

★～★の区間で、過去6年間で事故8件、負傷者10人！

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
発生件数	1件 四輪×四輪 追突事故	1件 四輪×歩行者 (横断歩道付近横断中)	2件 ・四輪×二輪 (出会い頭) ・四輪×四輪 (追突)	2件 ・四輪×自転車 (出会い頭) ・四輪×四輪 (追突)	2件 ・四輪×不明 (出会い頭) ・四輪×四輪 (追突)	0件
死者数	0	0	0	0	0	0
負傷者数	2	1	3	2	2	0



宮ノ台・ユーカリが丘

宮ノ台5丁目、危険なカーブで事故！

【市民からの声】

新しくできた住宅地西ユーカリが丘の児童が、青菅小に向かう通学路。カーブで見通しが悪く、車が来ているのに気づかない。朝は保護者がスクールガードをしているが、下校時はない。放課後、児童が乗る自転車と車の衝突事故が起きた。

信号機の設置をお願いしたい！



現地調査と対応

県警にヒアリングしたところ、「信号機設置の要望は把握しているが、交通量が少なく、必要性は低いと考える。しかし、カーブで見通しが悪いことから、通学路の変更を学校側に申し入れている」との回答。

◆井野中学校のところまで歩けば信号があるので通学路の変更はできないか、市教育委員会に問い合わせた。

→現在の通学路の途中にマンションがあり、子どもが多い。同じ通学路を通ることとしているため、通学路の変更は難しいとのこと。

◆市の合同点検78箇所に含まれている。市としては、信号機の設置を引き続き県に要望していく。見守り活動を継続。



2021年10月2日

ユーカリが丘1-31、みずき通りの交差点

【市民からの声】

◆下り坂の直線道路で、小竹からの車がスピードを上げて通過。横断歩道で一時停止をしない。

◆小竹小の約30名の児童がここを通るが大変危険。

◆2014年、1丁目自治会が交差点に信号設置を要望し、佐倉警察署から押しボタン式信号機を設置するという回答をもらったが、いまだ実現せず。



現地調査と対応

◆見守り活動を継続しているが、高齢化で先行き不安。

【県警にヒアリング】

信号機設置について自治会から要望を受理しているが、交通量がそれほど多くなく、信号機設置は困難。

→引き続き、押しボタン式信号機など要望していく。



2021年10月2日

上座地区

ユーカリが丘駅北側すぐの三叉路

【市民からの声】

元「隠れ家」の間に入る道は、志津小の通学路になっているが、歩道が狭い。国道 296 の抜け道になっており、かなりのスピードで車が走り抜ける。登下校時には、進入禁止にするとか、速度規制やガードレール設置を望む。



現地調査と対応

通学路だけではなく、ユーカリが丘駅への抜け道ともなっており、登下校時の交通量が多い。

【県警の回答】

通学路一斉点検でも認知されており、関係各所で安全対策を検討した結果、学校職員やPTAでの定期的な見守りを実施することにした。

アンケート調査と現地調査をして感じたこと

人口が増えていた時代に大規模開発で造成された住宅地は、歩道の整備等しっかりされている箇所が多い。しかし、後から開発された子育て世帯が住む新しい住宅地は、道路整備することが難しく、危険な通学路となっているケースが多い。

古くから主要道路として使われている場所は、道幅が狭くても拡張することが困難で、大型車の取り締まりもされていない。横断歩道があり、歩行者がいても車がなかなか停止してくれず、渡りづらい。

やはり信号設置が一番安全な方法であり、要望している箇所は多いが、費用がかかるため実現にはハードルが高い。市の通学路一斉点検の改善状況としても、見守りの継続や、電柱幕の設置等にとどまっている。

地域との繋がりも薄れているので、危険な箇所を学校単位等で共通して認識する必要があるが、登校班がない学校もあり、児童の通学路を把握できていない状況もある。八街の事故を受けて、高まった危機意識が薄れることのないよう、継続して調査や要望を続けていくことが重要と考える。

(佐倉市議 松島こずえ)



志津地区①

中志津 干場公園横

【市民からの声】

干場公園横の坂道は、小学生が登校時の集合場所になっているが、上りも下りも飛ばす車が多く危険。一時停止線で止まらない。中学生も徒歩や自転車で通学するので危ない。2軒おきに横道があるので、車同士が出合い頭に事故を起こしかねず、子ども達が巻き添えになる恐れがある。

現場を見て

下志津小に通う子どもたちが道路を渡るのを、ボランティアが誘導をしている。坂道なので車のスピードが出る。



【佐倉市道路維持課にヒアリング】

- ・これまで個人や自治会から速度制限の要望は出ていない。
- ・この道路の速度制限はない。南志津保育園横の細い道では20 km規制になっている。

- 提案**
- ・速度制限 20 kmにする。
 - ・グリーンベルトの塗装をする。

【提案者（住民）から】

自治会に改善策を上げてみる。

ベルク志津店、ローズタウン沿いの道

【市民からの声】

ローズタウン沿いの坂道を上る車が多く、通行人がいても徐行や停止をせず、危険。通学路になっており、子どもが多い。

「歩行者あり、止まれ」など電柱に掲示したり、蛍光色看板の設置や、警察に歩行者優先をアピールしてほしい。



現地調査と対応

坂道を上がり、ベルクに入る車は多い。ベルク側に歩道は整備されている。

【佐倉市道路維持課にヒアリング】

個人や自治会から看板設置の要望は来ていない。要望があれば検討する。

→ 引き続き要望していく。

志津地区 ②

296 井野交差点～エコス

【市民からの声】

歩道もガードレールもない。住宅の塀が道路ぎりぎりまで迫り、植木や看板などで見通しが悪い。自分の子どもを歩かせたくない。道路には「通学路」と書かれているだけ。40 km制限だが、50 km、60 kmで通り抜ける車両もある。

道路を拡幅しガードレールの設置と、速度制限を30kmにしてほしい。

現場を見て

まさに、市内有数の危険箇所。特に、井野交差点付近は、路側帯がなく、歩行者は車との距離がギリギリのところを歩いている。



道路建設課にヒアリング

通学路になっているが、歩道の側線を引くにも側溝のふたに半分かかるので、引けなかった。交通量が多く、歩行者が車をよけて歩いている危険な実態は把握している。

- ・ 地区の方から歩道整備の要望が上がっているが、状況を説明した後連絡が来ない。
- ・ 道路拡幅には家のセットバックが必要。買収して補償するしかない。

怒!

今佐倉市が進めている「不要不急」の道路建設計画を見直し、通学路の安全対策に予算を回すよう強く求めています。



10月13日

井野外山交差点

【市民からの声】

とにかく狭く、歩行者と自転車が自動車に近接している。車に徐行を命じる条例を制定してほしい。



現地調査と市の対応

八千代市の工業団地に抜ける道路のためトラックが多く、佐倉方面への車も多い。歩道は縁石があるが、途中から狭くなり危険性が増す状況。通学路ではないが、井野小に横断する子どもがいる。

道路建設課にヒアリング：交差点の向きを改修する時に歩道の一部整備したが、今後予定はない。

ここ数年は、市民からの要望も来ていない。



10月13日

志津地区 ③

上志津原 ① ローソン十字路

【市民からの声】

ユーカーが丘に行く抜け道で、県道155号から入ってくる車が凄いスピードで走る。過去に何度も人身事故や物損事故があるのに改善されない。

信号を設置してほしい。

現地調査と対応

南志津小の通学路で、多くの生徒が通っている。通学時間帯は交通量が多く、ボランティアが誘導。歩道は縁石で確保されている。

市道路維持課にヒアリングした結果

- ◆歩車道境界ブロックを着色予定。
- ◆路面標示を設置する。
- ◆横断歩道を補修する予定。



上志津原 ② セブンイレブン十字路

【市民からの声】

同じく南志津小の通学路。大型トラックが頻繁に通る。県道155号は交通量が多く危険。

現地調査と対応

- ◆登校する子どもが横断していたが、かなりの数の児童で、一度に渡り切れるようボランティアが誘導していた。
- ◆歩道には、安全のために赤白の支柱が設置されていた。

佐倉市道路建設課にヒアリング：右折渋滞がひどいので、県と市が連携して4～5年以内に右折レーンを設置予定。現在県が測量を終了。これから用地買収に入る。



②上志津原交差点で信号待ちをする登校中の児童たち。



信号
トリビア

信号設置には色々な条件があることをご存知ですか？

その一つに、歩行者が安全に横断を待つことができる「スペースの確保」があります。上の写真のように、たくさん子どもたちが信号待ちできるスペースです。

西志津2丁目トヨペット脇

【市民からの声】

見通しが悪く、車の事故が多い。
危険な歩道の改善と、空き地の草刈りを
定期的にしてほしい。



現地調査と対応

- ◆西志津小の通学路。朝の通学時間帯に水道道路から、旧志津霊園の道に迂回する車がある。
- ◆空き地の除草がされず、夏場は見通しが悪かったが、現地調査（10月11日）直前に除草された。

資産経営部にヒアリング

空き地管理は資産経営部。今年は夏休み後に除草したので、夏休み前は草丈が伸びて、見通しが悪かった。

→ 次回から早期に除草するよう依頼。



現地調査で感じたこと

～八街の悲劇を繰り返さないために～

八街市での悲惨な交通事故。大人の身勝手な飲酒運転という行動が引き起こした事故でした。でもせめてガードレールなどの道路整備がされていれば、このひどい状況を回避できたのではと思わざるを得ませんでした。

現在、市内の通学路危険個所として78か所が改善されようとしています。そのなかで、皆様からのお葉書は、常日頃思っておられる地域の危険をお知らせいただく内容で、本当に身近な問題ということを痛感しました。

現地調査で道路状況を見ると、通学のために側線が引けるスペースはないのか、車のスピードを緩めたり、トラックの規制はできないかなど様々な問題点が明らかになりました。このような中を子どもたちは毎日学校に通い、放課後を過ごしている現実に、何とか改善しなければと強く思いました。

関係機関である県、市、警察などに道路環境の整備や交通規制の強化をしっかりと訴えるため、市民の皆様と一緒に行動していきます。

（佐倉市議 五十嵐ともみ）



安全な通学路を！ 警察常任委員会で声を上げていきます。

大型車両通行制限道路に我が物顔で大型トラックが通行しています。

警察も取り締まる場所がないからと野放し状態でした。

警察常任委員会では定期的に取り締まるよう、要望しています。

また、大型車両と同じ車幅の8t以下の中型トラックは制限なしで通行できます。この矛盾に気が付いたのは、今回の調査がきっかけです。歩行者にとって危険なのは重量の違いではなく車の幅です。人の安全は二の次の道路交通法。法律改正が必要です。

信号機設置を要望してもランニングコストを抑えるため、極力新設しない方針です。全県で新規、移設の合計は平成30年度は47基、令和元年度33基、令和2年度は27基と年々減少しています。予算は30億円から32億円程度。予算内で抑えようとするれば、おのずと新設件数は減っていきます。

通学路安全点検では信号機設置を求める声は高まっているのにどう応えるのか、と警察常任委員会で質問したところ、「必要性が減っている」というものでした。あくまでも「枠内での対応」は認めたくない様子ですが、県民の安全を守るためにも必要なところへの信号機設置を要望していきます。

悲惨な事故を繰り返さないためにも、歩道や自転車道の整備、横断歩道や信号機の設置、速度規制、違反の取り締まり等、実効性のある対策を求めています。(千葉県議 伊藤とし子)



通学路調査をやってみて

佐倉地区は歴史のある古い町なので、道路も狭いところが多い。

しかし、こんなにも歩道が狭い町はほとんど見たことがない。事故が起こってからでは遅い。

子どもをはじめとした市民の安全を最優先に考え、都市計画に入れ込むことも必要ではないだろうか。景観を重視し、あまり変えずに残すところと、整備を進めるところを明確にし、市や県も本腰を入れて、予算化し、粘り強く改善していくよう求めたい。景観重視した地区は、自動車の速度制限やカラー塗装など、工夫をして安全確保に努めてほしい。

また、土日など保護者が協力して通学路の整備をするイベントや、保護者も通学路の危険箇所を巡る(酒々井町で実施)など、新たな取り組みも視野に入れ、市民意識が高まっている今こそ市民を巻き込んだ施策を行い、町ぐるみで安全を守ることも効果的ではないかと考える。

県の管轄が多いとは思いますが、市でも、子どもや運転者への啓発活動や、飲酒運転アルコール依存症の治療への積極的な取り組みなど、ソフト対策の充実を図るよう求めたい。

(佐倉市議 川口えみ)

STOP! 飲酒運転



八街の悲劇を二度と起こさないために

昨年6月28日、八街市で、自家用トラックの飲酒運転により、児童2人のかけがえのない命が奪われ、3人が重篤となる痛ましい交通事故が発生しました。

事故現場は見通しのよい直線道路ですが、センターラインも歩道も無く、道路の端を一行に歩いて下校中の子どもたちにトラックが突っ込んだのです。悲惨な交通事故を防ぐには、道路の整備と並行して、飲酒運転の根絶が必要です。千葉県状況はどうでしょうか？

2020年度全国飲酒運転事故件数 ワースト10 (日本損害保険協会調査)

順位	県名	飲酒運転事故件数
1	愛知県	172
2	東京	151
	大阪	151
4	神奈川	139
5	千葉	133
6	埼玉	122
7	福岡	111
8	兵庫	98
9	北海道	94
10	静岡	92

2020年度千葉県内飲酒事故 ワースト15

(千葉県警本部 交通事故統計資料集より)

	市	発生件数	死者数	負傷者数
1	千葉市	24	1	30
2	市原市	19	1	23
3	船橋市	11	1	15
4	市川市	9	0	12
	成田市	9	1	15
6	柏市	6	0	11
	木更津市	6	0	7
8	八街市	5	1	5
9	松戸市	4	0	4
	茂原市	4	1	4
11	八千代市	3	0	4
	野田市	3	0	3
	君津市	3	0	3
	袖ヶ浦市	3	0	4
15	佐倉市	2	0	5

飲酒体験ゴーグル貸し出し
ています！

千葉県環境生活部
暮らし安全推進課
交通安全対策室

電話:043-223-2263



千葉県飲酒運転根絶条例

2021年12月県議会で、自民党提出の「千葉県飲酒運転の根絶を実現するための条例」が可決されました。八街の事故を受けて急遽の提案です。

評価すべき点

- ◆飲食店などに対して、客が飲酒運転をする恐れがある場合、通報の努力義務を課している。
- ◆規定値を超えるアルコールを検知するとエンジンが自動的にかからなくなる機器の活用を促している。

残念な点

◆アルコール依存症への言及が全くないこと。

飲酒運転の常習者の4割近くが、アルコール依存症だということが神奈川県警の調査で出ています。八街市の事故の加害者も、裁判の中で依存症であることが判明しました。

飲酒運転を取り締まるだけでなく、常習者に対し、医療機関での診断と治療を義務付けることが必要です。

番外編

裏新町 佐倉小通学路

アンケート調査より前に、市民から寄せられていた問題のある通学路です。



裏新町の通りは佐倉小の通学路ですが、成田街道からの抜け道になっており、朝の登校時に進入する車が多く危険です。

2018年に自治会から、登校時間帯は車両通行禁止のスクールゾーンにする要望が出ましたが、警察は「近隣住民の同意をとるのが難しい」として却下してしまいました。

自治会が要望しているのに、全く調査もしないで却下するとはとんでもないことです。

私たちは今後も、県議・市議が連携して声をあげていきます。

通学路安全調査プロジェクト

報告集ができるまで

- ① ハガキでアンケート募集：8月15日～9月半ば
- ② 届いた35通の点検作業（地図に落とし、連絡の取れる方にコンタクト）
- ③ 現地調査：2021年10月～2022年1月
- ④ 道路台帳を印旛土木事務所と佐倉市で取得
- ⑤ 不明点や確認事項を、千葉県と佐倉市にヒアリング
- ⑥ 編集作業：2021年12月～2022年1月

プロジェクト・メンバー

宮田みどり、伊藤とし子、五十嵐ともみ、川口えみ、松島こずえ、猪俣悦子、栗田幸子、中田八千代、大野博美

発行 2022年1月15日
発行責任者 宮田みどり
編集責任者 大野博美